

建築学専攻

I. 志望区分

志望区分	研 究 内 容	担当教員
構 造 系		
I-1	建築構造力学 構造解析学 構造安定論 建築設計力学 大空間構造 建築構造最適化	大崎 純 張 景耀
I-2	鉄筋コンクリート構造学 プレストレスト・コンクリート構造学 構造材料学 複合構造学 耐震設計学 耐火設計	谷 昌典
I-3	鉄骨構造学 合成構造学 高性能材料工学 空間構造計画学 溶接・接合工学	聲高 裕治 稲益 博行
I-4	建築・都市保全再生 地震工学 災害リスクマネジメント 構造デザイン論 伝統木造	杉野 未奈
I-5	構造最適設計・逆問題 耐震補強 建築動力学 耐震構造 耐震設計法 建築地盤工学	荒木 慶一 藤田 皓平
I-6	環境負荷低減 省資源 省エネルギーに貢献できる建築材料の開発 材料の力学性能 劣化機構 耐久性能	*
I-7	地震環境工学 地盤震動論 地震ハザード解析 地震荷重論 地盤-建物系非線形応答解析	松島 信一 長嶋 史明
I-8	耐風構造工学 風環境工学 耐風設計デザイン論 大気環境災害論 工学的意思決定論	西嶋 一欽
I-9	鋼構造耐震学 構造振動制御論 極限解析学 建築防災工学 構造ヘルスマニタリング	池田 芳樹 倉田 真宏
I-10	構造動力学 地震防災工学 地震被害推定と予測	境 有紀
計 画 系		
II-1	建築計画・設計 環境行動・心理 医療福祉建築 建築情報学	三浦 研
II-2	建築史 都市史	富島 義幸 岩本 馨
II-3	国際建築批評学 現代建築史 現代建築論 建築設計	トーマス ダニエル
II-4	建築設計学 建築設計 建築形態論	平田 晃久
II-5	建築生産 建築プロジェクトマネジメント 生産設計 建築経済 建築社会システム 生産管理	金多 隆 西野佐弥香
II-6	生活空間設計学 建築論 建築構法学 近代建築史	田路 貴浩 小見山陽介
II-7	居住空間学 都市・地域計画 環境再生・共生 住居・住環境計画 居住空間の再編・再生	神吉紀世子 柳沢 究
II-8	人間環境設計論 環境デザイン 地域建築学 自然災害と人間居住	小林 広英 落合 知帆
II-9	災害と都市・建築 防災・復興計画論 災害建築・都市のデザイン 危機管理論	牧 紀男
環 境 系		
III-1	温熱環境制御 建築と設備の省エネルギー 文化財保存	小椋 大輔 伊庭千恵美
III-2	人間生活環境学 建築光環境 建築照明・色彩 視覚工学	石田泰一郎
III-3	都市と建築空間の温熱環境 建築火災安全工学 木造の火災安全 火災時の煙制御と避難安全	原田 和典 仁井 大策
III-4	音環境 騒音・振動制御 建築音響 環境心理 音とコミュニケーション	大谷 真
III-5	都市防火 自然災害起因の大規模火災 地震火災 津波火災 都市複合災害リスク評価 広域避難計画 災害レジリエンス解析	西野 智研

*印は、指導教員が未定であることを示す。*印の分野についての研究内容及び指導教員に関する質問がある場合、専攻長に問い合わせること。

Ⅱ. 募集人員

建築学専攻 若干名

Ⅲ. 出願資格

募集要項 4 ページ「Ⅱ－i 出願資格」参照

Ⅳ. 学力検査日程

月 日	曜	時 間	試験科目	概 要
2 月 1 2 日	水	14:00～16:30	専門科目（計画、 構造、環境）	筆答 志望区分に従い、計画、環境、構造の 中から 1 科目を選択

Ⅴ. 入学試験詳細

(1) 配点

科 目	配 点
英語	1 0 0
専門科目	3 0 0
合 計	4 0 0

(2) 英語

TOEFL 試験の成績を 100 点満点に換算する。成績の提出方法その他については、下記の項目を参照のこと。なお、(ii) を提出しなかった場合は、英語の得点は 0 点となる。

- (i) 2023 年 2 月 1 日以降に実施された TOEFL スコアを有効とする。Test Date scores のみを利用し、MyBest™scores は利用しない。TOEFL-iBT(Internet-Based Test) のみ受け付ける。自宅受験 TOEFL iBT Home Edition や団体特別受験 TOEFL-ITP などの成績は無効とする。
- (ii) Institutional Score Report が ETS (Educational Testing Service) から京都大学工学研究科建築学専攻宛に届くようにすること（期限：2 月 7 日（金）17:00）。手続の際には、送付先の Institution Code に **B472** を指定し、以下のいずれかの方法をとること。（Institution Code に B472 が指定されていれば、Department Code は、どの番号が指定されていてもよい。）
 - ・ TOEFL 試験申込時又は試験前日の 22 時までに ETS に申請する方法（無料）
 - ・ TOEFL 試験日以降に ETS に申請する方法（有料）
- (iii) 複数の Institutional Score Report が提出された場合には、それらのうち最高点の成績を英語の点数とする。
- (iv) 受験資格により TOEFL を受験することが困難な場合は、事前に C クラスター事務区教務掛（建築系）まで連絡すること。
- (v) TOEFL の Institutional Score Report が指定送付先に到着するまでの時間を確認して、十分に時間的余裕を持って早めに受験することを推奨する。TOEFL 試験の詳細についての問い合わせ先は、以下の通り。

<https://www.toefl-ibt.jp/index.html>

<https://www.ets.org/toefl>

(vi) Institutional Score Report の到着の有無についての問い合わせには回答しない。

(3) 有資格者及び合格者決定法

- (a) 総得点（400 点満点）が 200 点以上の者を有資格者とする。
- (b) 有資格者の中から得点と志望区分を総合的に判断して合格者を決定する。

(4) 筆答試験の注意事項

- (a) 試験は桂キャンパス C2 棟で行う。詳細は受験票交付時に指示する。
- (b) 試験開始後 30 分以上遅刻した者の入室は認めない。
- (c) 試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。
- (d) 時計（計時機能のみ）の使用は認めるが、アラーム機能は予め切っておくこと。携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。

VI. 出願要領

出願に先立ち、必ず「志望区分」担当教員に連絡し、受入れについて確認すること。

「志望区分申告書」（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）を願書提出時に別途 C クラスター事務区教務掛（建築系）へ提出すること。

VII. 入学後の教育プログラムの選択

入試区分「建築学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。いずれのプログラムを履修するかは、合格者の志望と入試成績に応じて審査の後に決定される。詳細については、募集要項 Part A の『XV. 表 修士課程入学後の教育プログラムと入試区分・専攻』を参照すること。また、教育プログラムの内容については、『X 修士課程入学後の教育プログラムについて』を参照すること。

○ 修士課程教育プログラム

・ 建築学専攻

○ 大学院博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）

・ デザイン学分野

VIII. その他

訂正や追加指示などが工学研究科または建築学専攻のホームページに掲載される場合があるので、適宜チェックすること。

<工学研究科ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/graduate/exam1>

<建築学専攻ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/exam>

問合せ先・連絡先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（建築系）

電話：075-383-2967

E-mail：kenchiku@adm.t.kyoto-u.ac.jp

参照 <http://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/>